



認知症を知ろう シリーズ①

認知症は誰にも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上では4人に1人にその症状があるといわれています。記憶や判断に障害が現れますが、全てがわからなくなってしまうわけではありません。

新しい記憶は難しくとも、印象深かった出来事の記憶はまだ残っています。昔楽しんでやっていた趣味などは身体が自然に動くので、初期の場合周囲は気づきにくいかもしれません。

早期発見、早期受診・診断、治療が大事なわけ

⇒病気が理解できる時点で受診し、少しずつ理解を深めていけば生活上の障害を軽減でき、その後のトラブルを減らすことも可能です。



⇒障害の軽いうちに障害が重くなったときの後見人を決めておく（任意後見人制度）等の準備をしておけば、認知症であっても自分が願う生き方を全うすることは可能です。

“民生委員連携会議”を開催しました

あんしんセンターでは、民生委員さんとの情報交換会を定期的で開催しています。

在宅福祉サービスや介護保険制度の紹介のほか、地域のサロンや支えあいの活動の様子など、情報共有も行います。高齢者が住み慣れた地域で長く生活していけるよう、皆さんと連携して支える仕組みが各地域でも展開されています。



地域の方との顔が見える関係作りに努めます



認知症の方への上手な対応を考える「寸劇」

認知症サポーターの養成講座について

高齢者の増加に伴い認知症の人も増加しています。

高崎市では、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりを目指して、地域で認知症サポーターを養成しています。

認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かい目で見守ることのできる人です。地域にあんしんセンター職員が出向き、講座を開催します。企業や学校からの申し込みもお待ちしています。